

平成 26 年度に実施した選択的評価事項に係る
評価に関する検証結果報告書（高等専門学校）

平成 28 年 3 月

独立行政法人 大学評価・学位授与機構

はじめに

大学評価・学位授与機構（以下「機構」という。）では、選択的評価事項に係る評価を評価の経験や評価を受けた機関等の意見を踏まえつつ、常に評価システムの改善を図ることとしている。

機構は、選択的評価事項に係る評価において、毎年度、評価の終了後、評価対象校及び機構側の評価担当者（以下「評価担当者」という。）へのアンケート調査を実施し、その結果等をもとに評価の有効性、適切性について検証を行うことにより、評価内容・方法等の改善・充実すべき点を把握し、次年度以降に実施する選択的評価事項に係る評価に反映させている。

平成 26 年度実施の選択的評価事項に係る評価においても、アンケートを実施して検証を行うこととし、より透明性の高い評価とするため、ここに平成 26 年度実施の選択的評価事項に係る評価（15 高等専門学校）に関する調査及び検証結果を取りまとめた。

目 次

はじめに

I 機構が実施した選択的評価事項に係る評価の概要	1
--------------------------	---

II 平成 26 年度実施の選択的評価事項に係る評価に関する検証

1. 検証の実施方法	5
------------	---

2. 項目別の検証

(1) 選択的評価事項及び観点について	6
(2) 自己評価書について	7
(3) 書面調査・訪問調査について	8
(4) 評価結果（評価報告書）について	10
(5) 評価についての全般的な意見・感想について	11

参考資料

1 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （選択式回答）【対象校】	14
2 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （選択式回答）【評価担当者】	15
3 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （自由記述）【対象校】	16
4 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （自由記述）【評価担当者】	18
5 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート 【対象校】（高等専門学校用）	20
6 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート 【評価担当者】（高等専門学校用）	23

I 機構が実施した選択的評価事項に係る評価の概要

平成 26 年度に実施した選択的評価事項に係る評価の検証を示すに当たって、まず機構が実施した高等専門学校を選択的評価事項に係る評価の概要について触れておく。

機構の実施する認証評価は、高等専門学校の正規課程における教育活動を中心として高等専門学校の教育研究活動等の総合的な状況の評価するものであるが、高等専門学校にとって研究活動は、教育活動とともに主要な活動の一つであり、さらに高等専門学校は、社会の一員として、地域社会、産業界と連携・交流を図るなど、教育、研究の両面にわたって知的資産を社会に還元することが求められており、実際にそのような活動が広く行われている。

機構は、高等専門学校評価基準とは異なる側面から高等専門学校の活動を評価するために、「研究活動の状況」（選択的評価事項 A）と「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」（選択的評価事項 B）の二つの選択的評価事項を設定し、高等専門学校の希望に基づいて、これらの事項に関わる活動等について評価を行っている。

選択的評価事項は、平成 17 年度に選択的評価基準として「研究活動の状況」及び「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の評価を開始した。なお、平成 18 年度実施分より選択的評価基準から選択的評価事項へ名称を改めている。

平成 26 年度実施の選択的評価事項に係る評価は、二つの評価を開始してから 10 年目の実施に当たる。なお、平成 23 年度から、機構が実施する評価の第 2 サイクル期間に移行した。

1. 目的

選択的評価事項に係る評価は、各高等専門学校の個性の伸長に資するよう、以下のことを目的として行っている。

- (1) 評価結果を各高等専門学校にフィードバックすることにより、各高等専門学校の教育研究活動等の改善に役立てること。
- (2) 高等専門学校の教育研究活動等の状況を明らかにし、それを社会に示すことにより、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくこと。

2. 実施体制

評価を実施するに当たっては、国・公・私立高等専門学校の関係者及び社会、経済、文化等各方面の有識者からなる高等専門学校機関別認証評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置し、その下に、具体的な評価を実施するため、対象高等専門学校（以下「対象校」という。）の状況に応じた評価部会を編成し、評価を実施した。

評価部会には、各高等専門学校の教育分野やその状況が多様であること等を勘案し、

対象校の学科等の状況に応じた各分野の専門家及び有識者を評価担当者として配置した。

3. 評価のプロセス

評価のプロセスの概要は、下記のとおりである。

(1) 高等専門学校における自己評価

各高等専門学校は、『自己評価実施要項』に従って、自己評価を実施し、自己評価書を作成した。

(2) 機構における評価

機構における評価は、書面調査及び訪問調査により実施した。

① 書面調査は、『評価実施手引書』に基づき、対象校から提出された自己評価書（高等専門学校の自己評価で根拠として提出された資料・データを含む。）及び機構が独自に調査・収集した資料・データ等に基づいて、対象校の状況を調査・分析した。

② 訪問調査は、『訪問調査実施要項』に基づき、書面調査では確認できない事項等を中心に調査を実施した。

③ 選択的評価事項ごとに、自己評価の状況を踏まえ、その評価事項に関わる各高等専門学校が有する目的の達成状況等について評価を実施した。

なお、選択的評価事項は、いくつかの内容に分けて規定されており、これらを踏まえ基本的な観点が設定されている。目的の達成状況等については、その個々の内容ごとに行うのではなく、基本的な観点の分析状況を総合した上で、選択的評価事項ごとに行った。

④ 選択的評価事項ごとに、取組が優れていると判断される場合や、改善の必要が認められる場合等には、その旨の指摘も行った。

⑤ 評価結果については、「目的の達成状況が非常に優れている」、「目的の達成状況が良好である」、「目的の達成状況がおおむね良好である」、「目的の達成状況が不十分である」の4段階で記述し、公表した。

4. スケジュール

(1) 平成25年6月に、国・公・私立高等専門学校の関係者に対し、評価の仕組み、方法等について説明会を実施するとともに、当該高等専門学校の自己評価担当者等に対し、自己評価書の記載等について研修会を実施した。

(2) 平成25年7月から9月にかけて申請を受け付け、最終的に以下の15高等専門学校の評価を実施することとなった。

○ 国立高等専門学校（14 高等専門学校）

函館工業高等専門学校（A・B）、苫小牧工業高等専門学校（A・B）、
秋田工業高等専門学校（A・B）、福島工業高等専門学校（A・B）、
小山工業高等専門学校（A・B）、群馬工業高等専門学校（A・B）、
長岡工業高等専門学校（A・B）、石川工業高等専門学校（A・B）、
豊田工業高等専門学校（A・B）、米子工業高等専門学校（A・B）、
津山工業高等専門学校（A・B）、大島商船高等専門学校（A・B）、
新居浜工業高等専門学校（A・B）、大分工業高等専門学校（A・B）

○ 私立高等専門学校（1 高等専門学校）

近畿大学工業高等専門学校（A・B）

(3) 平成 26 年 6 月に、評価担当者が共通理解の下で公正、適切かつ円滑にその職務が遂行できるよう、評価の目的、内容及び方法等について評価担当者に対する研修を実施した。

(4) 平成 26 年 6 月末に、対象校から自己評価書の提出を受けた。

(5) 対象校からの自己評価書提出後の評価作業スケジュールは次のとおりであった。

25 年 7 月	書面調査の実施
8 月	運営小委員会の開催（各評価部会間の横断的な事項の調整） 評価部会の開催（書面調査による分析結果の整理、訪問調査での確認 事項及び訪問調査での役割分担の決定）
9～11 月	訪問調査の実施（書面調査では確認できなかった事項等を中心に対象 校の状況を調査）
12 月	運営小委員会、評価部会の開催（評価結果（原案）の作成）

(6) これらの調査結果を踏まえ、平成 27 年 1 月に評価委員会で評価結果（案）を決定した。

(7) 評価結果（案）に対する意見の申立ての機会を設け、平成 27 年 3 月の評価委員会での審議を経て最終的な評価結果を確定した。

5. 評価結果

平成 26 年度に選択的評価事項に係る評価を実施した高等専門学校の評価結果は、次の

とおりとなった。

- 選択的評価事項A
 - ・ 目的の達成状況が非常に優れている： 1 高等専門学校
 - ・ 目的の達成状況が良好である： 13 高等専門学校
 - ・ 目的の達成状況がおおむね良好である： 1 高等専門学校
- 選択的評価事項B
 - ・ 目的の達成状況が非常に優れている： 5 高等専門学校
 - ・ 目的の達成状況が良好である： 10 高等専門学校

機構はこの評価結果を平成 27 年 3 月 26 日付で、各対象機関及び設置者へ通知するとともに、機構のウェブサイトにより公表し、かつ文部科学大臣へ報告した。

※ 選択的評価事項は機構ウェブサイトを参照のこと。

http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/kousen/index.html

Ⅱ 平成 26 年度実施の選択的評価事項に係る評価に関する検証

1. 検証の実施方法

(1) アンケート調査の実施

平成 26 年度実施の選択的評価事項に係る評価の対象校及び評価担当者に対し、記名選択式回答（5 段階・2 段階）及び自由記述からなるアンケート調査を実施した。

(2) アンケート調査結果等の検証

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査内容から、主要な項目を整理・分類し、項目別に分析を行った。その上で、評価実施過程において機構が把握した問題点等も踏まえ、評価の有効性、適切性を検証した。

分析項目は以下のとおりである。

- (1) 選択的評価事項及び観点について
- (2) 自己評価書について
- (3) 書面調査・訪問調査について
- (4) 評価結果（評価報告書）について
- (5) 評価についての全般的な意見・感想について

なお、報告書の本文には、アンケート調査結果のうち主なものを掲載しており、参考資料にはすべての調査結果を掲載している。

※アンケート調査に係る補足事項

1. アンケート用紙配付日程

	平成 26 年度
対象校	平成 27 年 3 月 27 日
評価担当者	平成 26 年 12 月 26 日

2. 平成 26 年度アンケートの回収状況

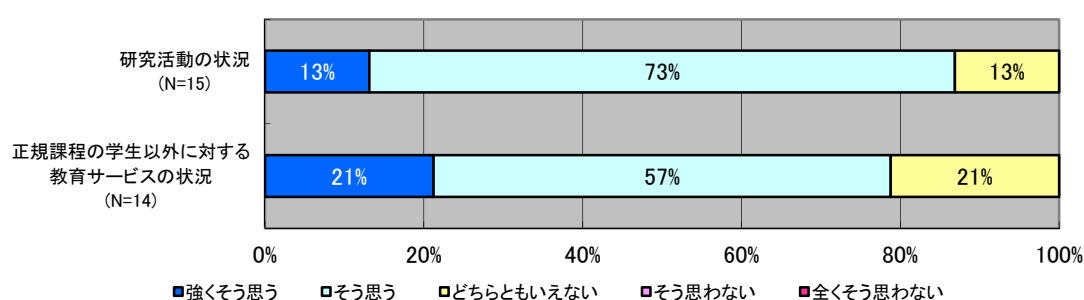
	回答数	回収率
対象校	15 校中 15 校	100%
評価担当者	19 名中 18 名	95%

(1) 選択的評価事項及び観点について

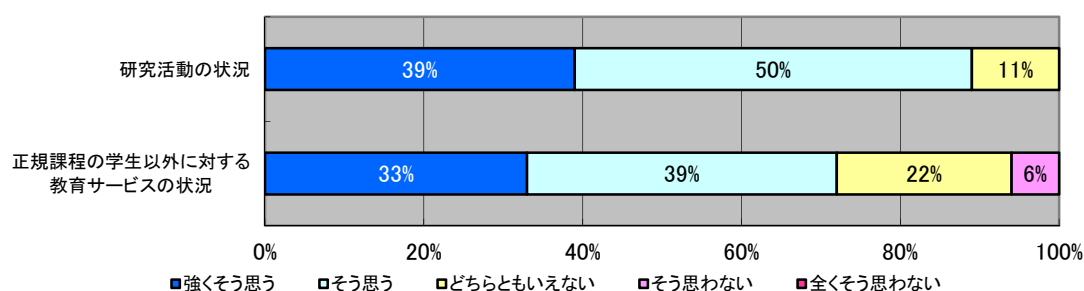
設定された選択的評価事項のテーマ「研究活動の状況」「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」は適切か（機関④、評③*）について、対象校、評価担当者に質問した結果を図1(a)(b)に表す。

対象校においては、80～90%が肯定的な回答（「強くそう思う」「そう思う」の合計、以下同じ）となっており、適切であるとの結果となった。

評価担当者の回答でも、およそ70～90%が肯定的な回答となり、おおむね適切であるという結果となった。



(a) 【対象校】 選択的評価事項のテーマの適切性



(b) 【評価担当者】 選択的評価事項のテーマの適切性 (N=18)

図1 選択的評価事項のテーマの適切性

※「機関○」：参考資料「選択的評価事項に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【対象校】」における設問番号に対応

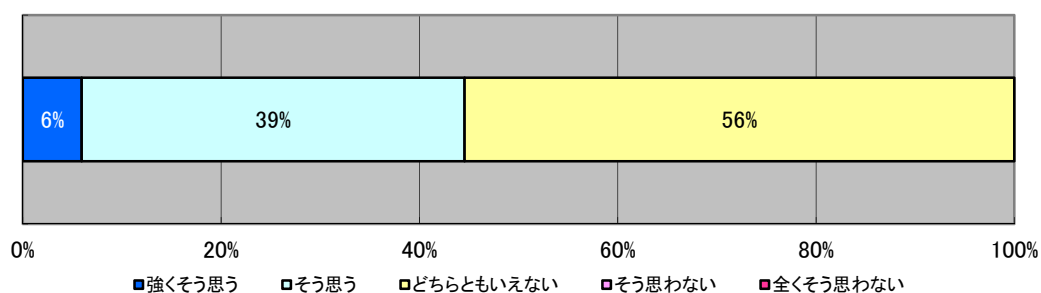
「評○」：参考資料「選択的評価事項に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【評価担当者】」における設問番号に対応
回答率については、小数点以下四捨五入のため合計が100%にならないものもある。また、未回答は除いている。

(2) 自己評価書について

対象校から提出された「自己評価書は理解しやすかった」か（評⑥）について、評価担当者に質問した結果を図2に示す。

否定的な回答はなかったものの、肯定的な回答は50%にも満たず、理解しやすい自己評価書が作られたとは言い難い結果となった。

今後も引き続き、説明会等において自己評価書作成に関する説明等を工夫していく必要がある。

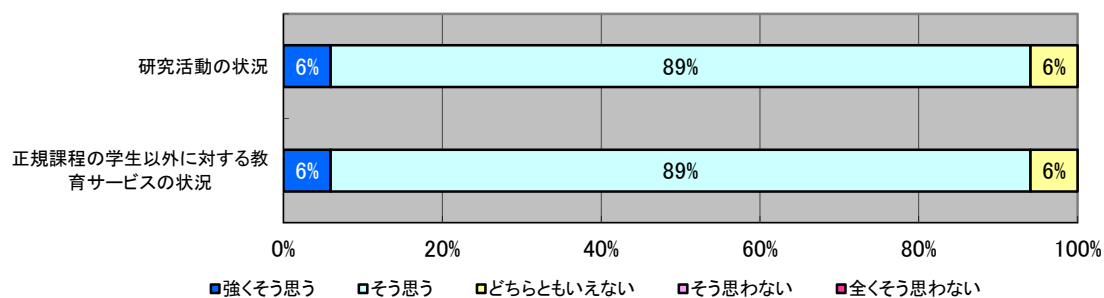


【評価担当者】対象校の自己評価書の理解のしやすさ (N=18)

図2 自己評価書の理解しやすさ

対象校から提出された自己評価書の添付資料について、必要な根拠資料が引用・添付されていた（評⑦）かについて質問した結果を図3に示す。

それぞれのテーマについて、肯定的な回答は90%以上となり、理解しやすさはあまり高評価ではなかったものの、添付資料については適切であったと思われる。



【評価担当者】対象校の自己評価書の根拠資料の適切性 (N=18)

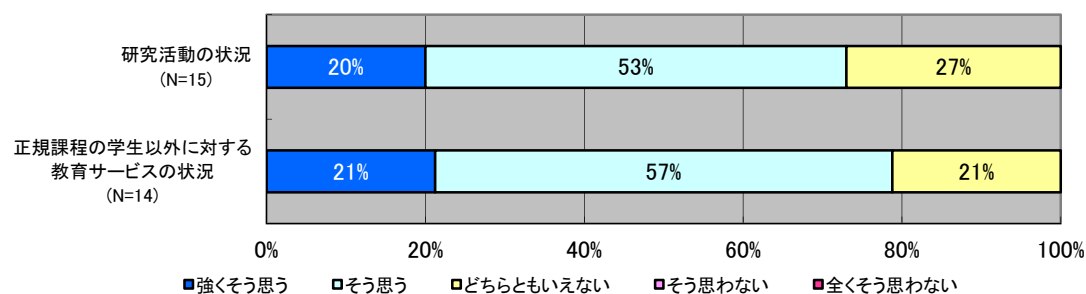
図3 根拠資料の適切性

(3) 書面調査・訪問調査について

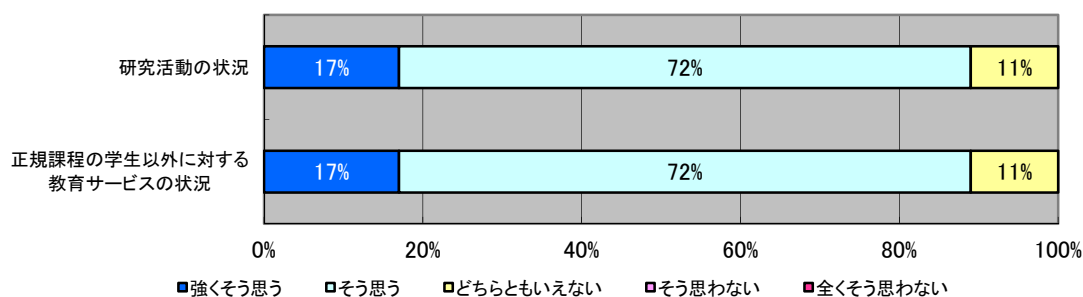
「書面調査による分析状況」の内容は適切であったか（機関⑧）について対象校に質問した結果と「機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった」か（評⑧）について評価担当者に質問した結果を図4(a)(b)に示す。

対象校においては、書面調査による分析状況について、否定的な回答はないが、肯定的な回答を示したのは70～80%前後となっているため、おおむね適切だったという結果となった。

評価担当者の回答では、書面調査等の様式については90%近くが肯定的な回答となっており、適切だったと思われる。



(a) 【対象校】「書面調査による分析状況」の適切性



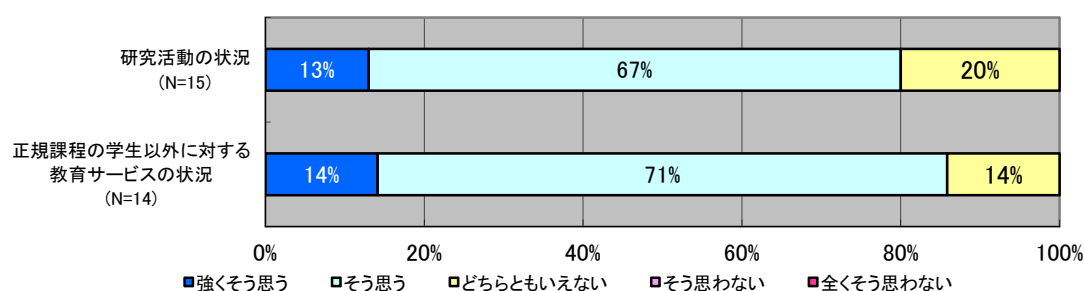
(b) 【評価担当者】書面調査等の様式の適切性 (N=18)

図4 書面調査等の適切性

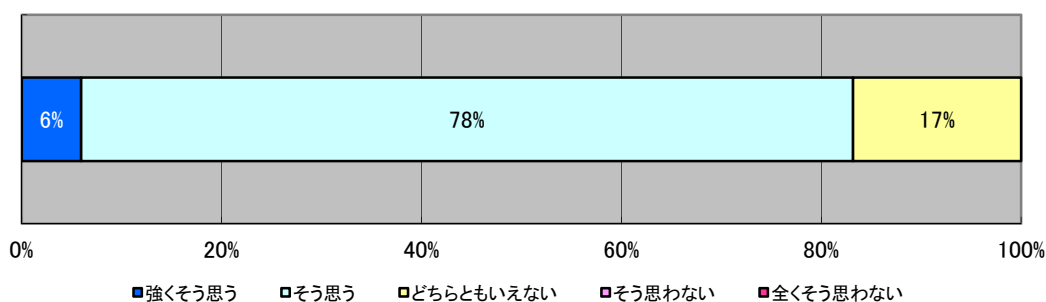
対象校に対し、「訪問調査の前に提示された、『訪問調査時の確認事項』の内容は適切であった」か（機関⑨）について、評価担当者に対し「『訪問調査時の確認事項』に対する対象校の回答内容は適切であった」か（評⑩）を質問した結果が図5(a)(b)である。

「訪問調査時の確認事項」の適切性については、対象校はおよそ80%程度が肯定的な回答になっており、おおむね適切であったと思われる。

評価担当者においては、対象校からの回答の適切性についておよそ80%程度が肯定的な回答であり、こちらもおおむね適切であったと思われる。



(a) 【対象校】「訪問調査時の確認事項」の適切性



(b) 【評価担当者】「訪問調査時の確認事項」に対する回答の適切性 (N=18)

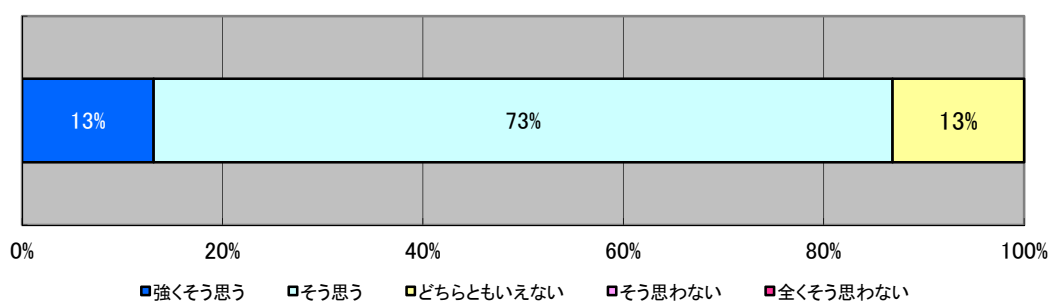
図5 「訪問調査時の確認事項」適切性

(4) 評価結果（評価報告書）について

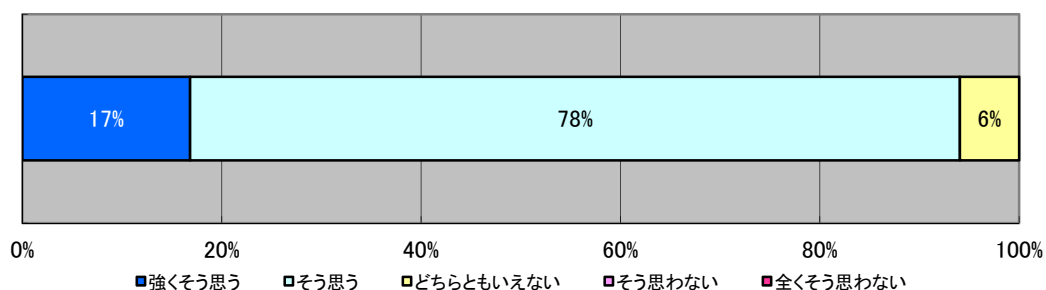
評価報告書の内容や構成について、「総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった」か（機関⑩）について対象校に質問した結果について、「自ら担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された」か（評⑪）について、評価担当者に質問した結果を、図6 (a) (b)に示す。

対象校においては、肯定的な回答がおよそ90%程度を占めており、機構による評価報告書の内容や構成については適切ととらえられたと思われる。

評価担当者においても、肯定的な回答は90%以上であり、担当者の調査内容が十分に評価結果報告書に反映されたと思われる。



(a) 【対象校】評価報告書の内容や構成の適切性 (N=15)



(b) 【評価担当者】評価結果の妥当性(調査内容の反映) (N=18)

図6 評価結果等の適切性

(5) 評価についての全般的な意見・感想について

(1)～(4)に挙げたもののほか、評価全般について、評価担当者から、主に次のような意見・感想があった。

・評価担当者からの意見・感想について

評価については「よい経験となった」との肯定的な感想があった一方、研究活動については非常に重要な評価対象であると考えため、選択評価ではなく本体の評価に入れるほうがよいのではという意見が寄せられた。

参 考 资 料

参考資料 目次

1	選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （選択式回答）【対象校】	14
2	選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （選択式回答）【評価担当者】	15
3	選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （自由記述）【対象校】	16
4	選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （自由記述）【評価担当者】	18
5	選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート 【対象校】（高等専門学校用）	20
6	選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート 【評価担当者】（高等専門学校用）	23

※ なお、アンケートの自由記述については、原則、原文をそのまま掲載した。（ただし、具体の高等専門学校や個人等が明らかに特定されるものについては、特定できないような表現に改めた上で掲載した。）

平成26年度実施選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【対象校】
【高等専門学校】

① 今回受けた選択的評価事項	A	15									
	B	14									
			【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】								
③ 認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたことは適切であった			5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
			3	9	3	0	0	15	4.00	0	
				20%	60%	20%	0%	0%	100%		
④ 「研究活動の状況」や「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった	A			2	11	2	0	0	15	4.00	0
				13%	73%	13%	0%	0%	100%		
	B			3	8	3	0	0	14	4.00	0
				21%	57%	21%	0%	0%	100%		
⑤ 選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった	A			2	11	1	1	0	15	3.93	0
				13%	73%	7%	7%	0%	100%		
	B			2	10	2	0	0	14	4.00	0
				14%	71%	14%	0%	0%	100%		
⑥ 基本的な観点の構成や内容は適切であった	A			3	10	1	1	0	15	4.00	0
				20%	67%	7%	7%	0%	100%		
	B			3	8	3	0	0	14	4.00	0
				21%	57%	21%	0%	0%	100%		
			【2:迷った 1:迷っていない】								
⑦ 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った			2	1	計	平均	未回答				
			3	12	15	1.20	0				
			20%	80%	100%						
			【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】								
⑧ 「書面調査による分析状況」の内容は適切であった	A			3	8	4	0	0	15	3.93	0
				20%	53%	27%	0%	0%	100%		
	B			3	8	3	0	0	14	4.00	0
				21%	57%	21%	0%	0%	100%		
⑨ 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった	A			2	10	3	0	0	15	3.93	0
				13%	67%	20%	0%	0%	100%		
	B			2	10	2	0	0	14	4.00	0
				14%	71%	14%	0%	0%	100%		
⑩ 総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった			2	11	2	0	0	15	4.00	0	
			13%	73%	13%	0%	0%	100%			
			【2:している 1:していない】								
⑪ 今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している			2	1	計	平均	未回答				
			12	3	15	1.80	0				
			80%	20%	100%						
⑫ 評価報告書をウェブサイトなどで公表している			13	2	15	1.87	0				
			87%	13%	100%						

平成26年度実施選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【評価担当者】

【高等専門学校】

① 今回、評価を担当された選択的評価事項について	A	18								
	B	18								
			【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】							
			5	4	3	2	1	計	平均	未回答
② 認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたことは適切であった			5	8	4	1	0	18	3.94	0
			28%	44%	22%	6%	0%	100%		
③ 「研究活動の状況」や「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった	A		7	9	2	0	0	18	4.28	0
			39%	50%	11%	0%	0%	100%		
	B		6	7	4	1	0	18	4	0
			33%	39%	22%	6%	0%	100%		
④ 選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった	A		4	8	6	0	0	18	3.89	0
			22%	44%	33%	0%	0%	100%		
	B		5	8	4	1	0	18	3.94	0
			28%	44%	22%	6%	0%	100%		
⑤ 基本的な観点の構成や内容は適切であった	A		3	9	6	0	0	18	3.83	0
			17%	50%	33%	0%	0%	100%		
	B		3	10	4	1	0	18	3.83	0
			17%	56%	22%	6%	0%	100%		
⑥ 対象校の自己評価書は理解しやすかった			1	7	10	0	0	18	3.5	0
			6%	39%	56%	0%	0%	100%		
⑦ 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた	A		1	16	1	0	0	18	4	0
			6%	89%	6%	0%	0%	100%		
	B		1	16	1	0	0	18	4	0
			6%	89%	6%	0%	0%	100%		
⑧ 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった	A		3	13	2	0	0	18	4.06	0
			17%	72%	11%	0%	0%	100%		
	B		3	13	2	0	0	18	4.06	0
			17%	72%	11%	0%	0%	100%		
⑨ 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報(客観的データ等)があればよかった	A		1	1	9	6	1	18	2.72	0
			6%	6%	50%	33%	6%	100%		
	B		0	2	9	6	1	18	2.67	0
			0%	11%	50%	33%	6%	100%		
⑩ 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった			1	14	3	0	0	18	3.89	0
			6%	78%	17%	0%	0%	100%		
⑪ 自ら担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された			3	14	1	0	0	18	4.11	0
			17%	78%	6%	0%	0%	100%		

選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【対象校】 （高等専門学校）

② 選択的評価事項に係る評価を受けた理由について

- ・ 本校の研究活動の状況および正規課程の学生以外に対する教育サービスについて自己評価し、外部基準で評価を受けるために実施した。
- ・ 他高専も受けているため拒む理由がなかった。また、前回も受けているため、継続的な評価と改善のためにも必要であった。
- ・ A、Bとも学校として重要な機能をチェックすることになるから。
- ・ 前回の受審に引き続いて、教育に反映される研究活動を実施しているか、社会的に開かれた教育を行っているかの現状を把握するために、これらの選択的評価事項についても評価を受けた。
- ・ 受けなくてもよいとは理解していなかった。
- ・ 「研究活動の状況」、「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の評価は重要であるから。
- ・ 本校の研究活動及び正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況について外部機関に評価いただくことで、本校が社会の要請に十分に答えうる状況となっているかを検証し、今後の本校の活動方針にフィードバックしていくため。
- ・ 本校では研究活動及び学生以外に対する教育サービスについても積極的に取り組んでいることから、選択的評価事項A及びBの両方の評価を受けた。
- ・ 前回も評価を受けており、今回の評価によって改善の度合いを評価するためです。
- ・ せっかくの機会であるので、本校が取り組んでいる多くの内容について評価していただく為である。
- ・ 優れている点や改善すべき点として評価及び指摘をしていただきたいがために受けました。

⑥ 基本的な観点の構成や内容について適切でなかった点

- ・ 高校生年代を抱える高専では少なくない数の教員が研究を精力的に継続できる状況にない。研究活動をバックアップする態勢は作れるが、成果が伴わない事項が多い。

⑦ 自己評価書に添付する資料で迷った点について

- ・ 教職員がそれぞれに実施している研究活動の状況を示す適切な資料の抽出が困難であった。
- ・ 「選択A」において「研究体制」と「研究支援体制」の区分について理解不十分であった。
- ・ どの程度の資料を付けるべきかを迷った。しかし、迷った資料については訪問調査時に提出を求められたため、全て付けるべきであったと思う。

○選択的評価事項に係る評価についてのご意見、ご感想（選択的評価事項に係る評価を受けて何らかの変更・改善を予定しているもの（または実施済みのもの）についても記載）

- ・ 研究活動を推進し、科研費等研究助成の申請率向上を目指す取り組みを計画している。
- ・ まだ公表していませんが、これからウェブサイト公表する予定です。

- 各高専で独自に取り組んでいる内容について、長所を評価していただける評価事項であり、今後も設けていただきたい。
- 選択的評価事項においても、従来ある基準項目の一つまたは、新しい基準項目として導入してもよいかと思います。

選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）

【評価担当者】（高等専門学校）

⑥ 対象校の自己評価書の理解しにくかった点について

- ・ 特に研究活動の状況については、“個人的な活動”と“学校組織内連携”を分けてまとめてもらうと、より適切に評価できた印象がある。

⑨ 書面調査を行うために必要であったと思われる参考となる情報（客観的データ等）について

- ・ 個人的な取組みと組織的取組みを意識してまとめてもらうと評価し易くなると思われる。

○ 選択的評価事項に係る評価についての意見、感想等

- ・ 研究活動も非常に重要な評価対象としますので、選択的評価事項ではなく、評価基準の1つとして扱うことも検討の余地があると考えます。
- ・ 選択的評価事項に対して、どの高専も記入されています。
そのため特筆するまでもないことも多く書かれています。
本当に該当するものに絞って書いてもらい、特に該当しない場合は書かなくてもいいという方針で事前相談の折に説明してもらえればと思いました。
- ・ 高等専門学校の研究の目的や教育サービスの目的に照らして、実施や改善を図るための体制やシステムを整備し、それらが機能しているかの検証等の必要性が大切さを知ることができ、私の所属組織でも活用したいと考えています。ありがとうございました。
- ・ 選択的評価事項A「研究活動の状況」は、選択的評価事項ではなく本体の方に移行するのが望ましい。高専において学士の学位を授与できる制度ができて、その基準を満たす教員の評価が行われ、特に機械系教員に不合格者が多く出たという話を聞いた。合格条件は相当緩やかなものであったにもかかわらずである。今後高専で独自に学位を授与することを基本方針に据えるのであれば、教員の研究能力をチェックする基準を設けた方がよい。それに伴い教員の採用・昇格に関しても、研究能力に優れた教員を確保するよう、原則公募の方針を促した方がよい。自己評価書では原則公募とうたっているが実質は内部昇格が多い印象を持っている。これまで教育重視で来すぎた印象を持つ。高専の特長としてあくまでも教育重視と言うことであれば、独自に学位を出すことにこだわらなくても良い。
- ・ 高専機構は今年度から研究を教育と同等に位置づけたことから、研究の項目の評価の一部は、教員団の評価項目に付け加える方が適当ではないかと思いました。また、教育サービスの教員研究や出前授業等の貢献は社会からの理解と支持としての項目で評価する方が望ましいのではないかと感じました。
- ・ 「研究活動の状況」に関しては、元々評価すべき事項かと思われます。
「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に関しては、研究活動等を考慮する時、少し頑張りすぎではないかと懸念を感じたところも有りました。

- ・ 選択的評価事項については、最近になって、“組織連携に基づいて改善・解決が図られた内容”をより重視する方針であることが全国の高専に伝わってゆけば、今後、より詳細かつ具体的な例が多く紹介されることになるであろうと思われる。

おそらく、今後、3～5年で各高専の特徴が色濃く反映される評価項目になるものと考えられる。

- ・ 貴重な体験をさせていただきありがとうございました。
今後も機会があれば評価に参加したいと考えております。
よろしく願いいたします。

平成26年度実施選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート

選択的評価事項に係る評価を受けた対象校のみお答えください。

- ① 今回、受けた選択的評価事項について、該当するものに○をお付けください

・選択的評価事項 A 「研究活動の状況」	
・選択的評価事項 B 「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」	

- ② 選択的評価事項に係る評価を受けた理由をご記入ください

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

- ③ 認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

- ④ 「研究活動の状況」や「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」
 を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

- ⑤ 選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

- ⑥ 基本的な観点の構成や内容は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※⑥について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

迷った	迷っていない	
2	1	

⑦ 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った

→※⑦について、2とご回答いただいた場合、どのような点で迷ったのかをご記入ください。

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

⑧ 「書面調査による分析状況」の内容は適切であった -----

→※⑧について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

⑨ 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった -----

→※⑨について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑩ 総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった -----

⑪ 今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイト等で公表している -----

⑫ 評価報告書をウェブサイト等で公表している -----

している	していない	
2	1	
2	1	

・選択的評価事項に係る評価についてのご意見、ご感想があればご記入ください。（選択的評価事項に係る評価を受けて何らかの変更・改善を予定しているもの（または実施済みのもの）があれば、それをご記入ください。）

ご協力ありがとうございました。

平成26年度実施選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート

選択的評価事項に係る評価を担当された方のみお答えください。

- ① 今回、評価を担当された選択的評価事項について、該当するものに○をお付けください

・選択的評価事項A「研究活動の状況」	
・選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」	

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

- ② 認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

- ③ 「研究活動の状況」や「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」
 を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

- ④ 選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示す
 という方法は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

- ⑤ 基本的な観点の構成や内容は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※⑤について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

- ⑥ 対象校の自己評価書は理解しやすかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑥について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が理解しにくかったかをご記入ください。

⑦ 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※⑦について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような根拠資料が引用・添付されていなかったかをご記入ください。

--

⑧ 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※⑧について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が記入しにくかったかをご記入ください。

--

⑨ 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※⑨について、5又は4とご回答いただいた場合、どのような情報（客観的データ等）があればよかったかをご記入ください。

--

⑩ 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑪ 自ら担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

- ・ 選択的評価事項に係る評価についてご意見、ご感想等をご記入ください。

ご協力ありがとうございました。